

18章 総合問題18

問題

【1】

解答

1 e 2 b 3 f 4 c

解説

東大前期1 (B) の段落補充を模した出題である。8段落から成る文章で、1つおきの段落について、2つのダミーの入った6つの選択肢から4つ選ばせる問題である。段落間のつながりを見極めるには、特に段落最終文と次の段落の最初の文〔冒頭文〕に注目し、接続語（ディスコース・マーカー）や指示語、同意の表現や関連した内容を示す語句を手がかりに前後を決定する。

1 第2段落の第1文は That という指示語で始まっている。20世紀のアメリカ史を専門とし、ベトナム戦争に焦点を当てる授業を行っている歴史教師ジム・カレンの意見として適当な選択肢を選ぶ。「次の英文はベトナム戦争についての教育について述べたものである」という、設問文の冒頭も考慮すると、候補となるのは **d** と **e** である。**d** は「ベトナム戦争後、アメリカは厭戦的になったが、冷戦後はアメリカがしてきたすべての戦争は正しかったという考えが広まっており、ベトナム戦争を教えるのは難しいままである。」、**e** は「長年ベトナム戦争を教えるには客観性が問題であったが、今やそれは最大の課題ではないのかもしれない。」という内容である。このどちらが空所に入るのかは、本文の始まりの文でもあるのでこの後の論の展開を見なければ決定できない。したがって、空所2の検討後に空所1を決定する。

2 空所2の次の第4段落は Well into the 1980s (1980年代に入ってもなお) という表現で始まっており、1980年代についての記述になっている。このままでは唐突なので、空所2で、1980年代につながる何らかの記述があることが予想できる。そこで、選択肢を見ると **b** の第1文に「カレンさんが17年前に初めて教え始めた時」とあり、当時と今日とを比較した内容が続いている。(設問文に「この英文は2005年に書かれたものである」とあるのでヒントにできる。)

また、**b** の冒頭では Mr. Cullen と記されているが、これは、直前の第2段落で Jim Cullen と姓名で記され、彼のプロフィールが述べられた後に続く記述としてもつながりがよい。したがって、正解は **b** と判断する。

さて、ここで空所1に戻ると、空所2に入る選択肢 **b** では「17年前はベトナム戦争について教えるのは難しかったが、現在では難題は少なくなっている」と述べられているので、正解は **e** と判断できる。

3 第4段落にある teenagers の語が選択肢 **f** にもあることに注目する。選択肢 **f** は But という接続詞で始まって「現在」のことを述べているが、空所3に入れば、「過去」のことを述べた第4段落の内容とも自然につながる。また、空所2に入る選択肢 **b** は、

前半の Mr.Cullen ~ against it. ままで 1980 年代当時のことを述べており、後半の But nowadays 以降終わりまでで現在のことを述べているが、これをそれぞれ第 4 段落、空所 3 (=第 5 段落) で具体的に展開していると考えれば、文章の流れから考えても f が自然である。したがって、正解は f と確認できる。

- 4 第 8 段落の冒頭文の「若いアメリカ人が感じているシニシズムは必ずしもプライドの邪魔をするとは限らない」という内容から、空所 4 も cynicism [冷笑主義] に関する内容を含んでいると予想できる。選択肢 c は That cynicism で始まっており、特定のシニシズムを指すと考えられるので、空所 4 に入れば、ベトナム戦争が生み出したシニシズムについて触れた第 6 段落最終文にも自然につながる。したがって、c が正解。

なお、第 6 段落にある courage と honor が選択肢 a にあるが、a をここに入れると第 8 段落の内容とつながらなくなる。

a と d は不要な選択肢である。いずれも文脈には合わない内容であることを確かめる。意味は次の通り。

a 「勇気と名誉こそが現在のアメリカが取り戻さなくてはならないものである。国民に勇気や名誉があれば、困難に立ち向かい、それを乗り越えることができる。現在、アメリカはイラク戦争をはじめとして世界のさまざまな危機に直面している。アメリカ兵がイラクで戦い、亡くなっていることを不名誉だとさへみなすアメリカ人もいる。この困難を乗り越えるには国民全体が勇気と名誉という言葉でアメリカ英語特有の言語の中に取り戻し、アメリカの対外政策について敬意を払い、参加していくことが大切である。」

d 「ベトナム戦争後、アメリカは厭戦的になり、孤立主義に立ち戻った。しかし冷戦終結後、再び世界中のさまざまな紛争に世界の警察官として関わることになった。アメリカによるすべての戦争は正義の戦いであると言われ、戦争について議論することが困難になった。アメリカ社会を変化させた大きな歴史的出来事であるベトナム戦争について、現在のアメリカの学校で教えることはまだ困難なままである。」

全訳

e アメリカの歴史家たちは、ベトナム戦争やそこでアメリカ兵によって行われた残虐行為について学生たちに教える (ために [ための]), 公正でバランスのとれた方法を見つけようと長年努力してきた。しかし、サイゴンからアメリカが撤退した 30 周年のこの日、客観性はもはや教師が直面している最大の課題ではないのかもしれない。

これはジム・カレンの意見である。彼は、ニューヨーク市ブロンクスにある、私立学校エシカル・カルチャー・フィールドストーン校で 16, 17 歳の生徒たちを教えている。彼は 20 世紀のアメリカ史を専門にしており、したがってコースのかなりの部分はベトナム戦争に焦点を当てている。

b カレンさんは、17 年前に最初に教え始めた時、この戦争について生徒に話をするのは難しかったと述べている。生徒たちの親にはその紛争で軍務に就いていたか、反対運動に活発に参加している者が多かったからである。しかし最近では、戦争は大部分の生徒や親にとって過去のものとなっている。「ある意味、私には課題が少なくなっています。ベトナム戦争は、この生徒たちにとって、自分自身の歴史へとより明確に変わってきたからです。」

とカレンさんは述べている。「私が付き合っている人たちのほとんどは、ベトナム戦争を認識しており、国を二分する戦争であると認識していると思います。しかし彼ら自身は大して利害関係を持っていないのです。」

1980年代に入ってもなお、ベトナム戦争をめぐる怨恨はアメリカの大衆文化の中で明白だった。ブルース・スプリングスティーンによる『アメリカに生まれて』のような曲やオリバー・ストーンによる『7月4日に生まれて』のような映画はアメリカの10代の若者に人気があった。彼らはアメリカが1975年4月にサイゴンから撤退した時、ほんの歩き始めの幼児であった。

f しかし、今日の10代の若者は大衆文化の中でベトナムについてあまり耳にしないので、ジム・カレンは教師としての自分の課題は、ベトナム戦争について話す公平でバランスの取れた方法を見つけることというよりむしろ、(聞き手を)引きつける話し方を見つけることだと述べている。「ベトナム戦争にまつわる事柄の1つは、現代のメディアでとてもよく取り上げられるということです。」と彼は言っている。「しばしば実際に行っているのですが、私は生徒たちにベトナムに関するCNNのドキュメンタリーを見せることができます。そのドキュメンタリーには今日の戦争には見られないものがあります。すなわち、戦闘の最中に特派員が兵士と話をしているのです。そして(その兵士たちは)自らの苦悩を表現しているのです。ですから、子供たちがそれを言わば自分の経験として見るという意味があるのです。」

ジム・カレンは生徒たちに、その戦争についての身の上話を読ませる。例えば、戦争捕虜としてハノイで5年半を過ごしたアリゾナ州選出上院議員ジョン・マケインの話などである。「マケインはいくつかの理由で非常によい例であると思います。第一に、彼は生徒たちが接触することができる現代政治の人物です。」と彼は言う。「また、彼の話はとても劇的です。その上、『勇気』と『名誉』といったものを私たちに思い起こさせます。こうした言葉は、主にはベトナム戦争とそれが生み出したシニシズム〔冷笑主義〕ゆえにアメリカ英語特有の言語からほとんど消え失せてしまった言葉です。」

c そのシニシズムはその戦争最大の遺産かもしれない。戦争が終わってからずっと後に生まれた人々にも影響を及ぼしている。ジュリア・セルツァー(17歳)は、自分は個人的にはベトナム戦争と関わりを持っていないが、自分や同世代の人たちは確実に皮肉屋だと言っている。「私は、イラク戦争への若者たちの反応にそれを見ることができると思います。」とセルツァーさんは言う。「つまり、私たちはイラク戦争に対して非常に皮肉屋であったし、それはもっともな理由があると思います。そして、ベトナム戦争は、私たち全国民に影響するどのような力を政府が持っているのか、どのくらい戦争が真に我が国に影響するのかを本当に示したと思うのです。」

しかし、多くの若いアメリカ人が感じているシニシズムは必ずしもプライドの邪魔をするわけではない。17歳のジョッシュ・エーゲンドルフに尋ねてみよう。彼は、父親がベトナムに従軍した年齢である、この国で数が減りつつある10代の若者の一人である。「私は本当に(父の従軍について)ちょっと誇りに思っていました。父がこの世の苦しみを経験したという意味で。」と彼は言っている。「父はその種のことに関して非常に博識で、そして真面目な人です。ですから父をちょっと誇りに思っていたのですが、父が戦争後に苦渋した日々

つについては気の毒にも思いました。しかし父が従軍したことは私の人生で誇りに思う点です。」
 時が経つに連れ、ジョッシュ・エーゲンドルフのような生徒たちはますます少なくなるだろう。
 いつの日か、ベトナム戦争の歴史を教える人々でさえ、その戦争に個人的つながりを持たないことになるだろう。教師のジム・カレンはこう述べている。そしてそうなる時、ドキュメンタリーや身の上話は今日よりもさらに重要になるだろう、というのも、それらがなければ、ベトナム戦争もメキシコ戦争と同じ道をたどることになるからである。メキシコ戦争は領土欲によって引き起こされた、血まみれの、19世紀半ばの戦争であり、エイブラハム・リンカーンやヘンリー・デイヴィッド・ソローなどの著名な思想家によって非難されたが、今日ではアメリカ人にほとんど忘れ去られてしまっている。

注

選択肢

e

- ◇ atrocities 「(戦争における) 残虐行為」
- ◇ objectivity 「客観性」 *cf. objective* (客観的な) ⇔ *subjective* (主観的な)

b

- ◇ divisive 「区分を成す」
- ◇ stake 「利害関係」
cf. have a stake in ~ (～に関わり合いがある)

本文

- ℓ. 7 ◇ toddler 「よちよち歩きの〔歩き始めの〕幼児」 *cf. toddle* (よちよち歩く)
 ◇ pull out of ~ 「～から撤退する」 *cf. pullout* (撤退)

選択肢

f

- ◇ ~ is *not so much* to find a fair and balanced way to tell the story — *as* it is to find a compelling way to tell it
- ~ not so much A as B 「A というよりむしろ B」 (= more B than A; rather B than A)。
 ある事柄について、一般的に考えられているよりも大きなことであったり、難しいことであったりすることを示す場合が多い。

Ex. In many cases, nursing is *not so much* a job as a way of life.
 (多くの場合、看護は仕事というよりむしろ生活様式である。)

- ◇ compelling 「(人を) 引きつける」
- ◇ CNN (= Cable News Network) : アメリカのニュース専門テレビ局。
- ◇ correspondent 「特派員」 *cf. correspond* (合致する; 文通する)

本文

- ℓ. 8 ◇ personal narrative 「身の上話」
 ○ narrative 「物語」
- ℓ. 9 ◇ Senator 「上院議員」
 ◇ a prisoner of war 「捕虜」略して POW, p.o.w. のように表記されることもある。
- ℓ. 11 ◇ contemporary 「現代の; 当代の」名詞で「同年輩の人」の意味もある。

選択肢

c

◇ legacy 「遺産；名残」

本文

ℓ. 15 ◇ get in the way of ～ 「～の妨げになる」

ℓ. 16 ◇ dwindle 「少なくなる」

ℓ. 17 ◇ serve 「従軍する」

◇ kind of ～：副詞句で「ある程度；いくぶん」の意。

ℓ. 25 ◇ go the way of ～ 「～と同じ運命をたどる」

ℓ. 27 ◇ condemn ～ 「～を責める〔強く非難する〕」

【2】

解答

- (1) 「全訳」の下線部㉓参照。
- (2) キーツを研究するにはキーツが実際に書いた詩や書簡を研究するのが一番であるということ。[42字]
- (3) 「全訳」の下線部㉔参照。

解説

- (1) with the poems and the letters the students of Keats may be well content
< The student of Keats may be well content with the poems and the letters.
○ the student of Keats 「キーツ研究家」
○ student = anyone who studies or is devoted to learning, books, etc.
○ may be well content : well は content を修飾。
cf. *may well be* content : well は may を修飾。
○ content [kɒntént] = satisfied
- (2) Keats is still the best authority on Keats. (キーツはいまだにキーツに関する最高の権威者なのだ。) は前文の The biographies have been largely unsuccessful. の内容を受けている。この The biographies は、「The + 複数形」が「特定の複数」を表すことから、The biographies of Keats である。つまり「これまでキーツについて書かれた伝記は、キーツ研究家にとって、ほとんど役に立たないものであった」のである。したがって「キーツを研究するにはキーツが実際に書いた詩や書簡を研究するのが一番であるということ。」が正解となる。
- (3) No one is in less need of defence (than Keats) = Keats is in the least need of defence of all the poets
○ No one = No poet
○ in need of = requiring (something)
○ defence = being defended
< defend = attempt to justify
※ここでは「防御」ではなく、「弁護」の意。

○ sympathy 「同情の念」 (pity と異なり, 憐れみの意味合いはない。)

※ special で修飾されているので「共感」ではなく「同情」ととる。

全訳

(キーツの) 書簡が徐々に (モーリス・バクストン・フォーマンの優れた 1947 年版の書簡集へと) まとめられたことは, キーツに対して, その死後に成されたうちで最大の貢献である。そして①その詩と書簡に, キーツの研究家は十分に満足しているかもしれない。これまでキーツについて書かれてきた伝記の大半はうまくいかなかった。キーツはいまだにキーツに関する最高の権威者なのだ。さらにはキーツのような詩人は他には例がないのである。ワーズワースもシェリーもキーツほどの情熱を持って美を追求はしなかった。「自然」「自由」「愛」といった美から区別され得る抽象的な概念や, (創作の) 想像力がほとんど関係を持たない真理が両詩人にとっては大いに重要であった。しかし, キーツの詩人としての目は理屈によって歪められることは決してなかった。彼は純粋な詩人であった。②キーツほどに弁護されることを必要としない詩人はいないが, それでも我々は彼の作品を特別な同情の念を持って読むべきである。詩の持つ価値は絶対的なものである。それが老人によって書かれたかあるいは少年によって書かれたかということは, いささかも問題でない。しかしキーツは 25 歳と 4 カ月という若さで死んだのだ。これは最も著名な詩人たちでさえほとんど何事をも成し遂げてはいない年齢である。したがってキーツの年齢を考慮することは, 彼の最も優れた詩に対する我々の評価に影響を与えるべきではないが, 我々を彼の最もうまくない詩に対して公正さを欠くことから間違いなく妨げるはずである。我々が彼からもらった作品はすべて「初期の作品」と呼ばれるかもしれないのだし, そして 1 人の詩人の「初期の作品」がキーツの作品ほどまでに情け容赦なく調べられたことはかつてなかった。彼には自分の詩作中の冗長な表現を削除する時間はなく, 自分が書いたものを読む時間さえほとんどなかったのだ。彼の創作に関わった人生の総年数はかろうじて 5 年である。それは 1 つの奇蹟的で感動的な物語である。

注

- ℓ. 1 ◇ accumulation < accumulate = gather together a number or quantity of
◇ magnificent = very attractive and impressive; splendid
- ℓ. 2 ◇ (John) Keats 「(ジョン・) キーツ」 英国の詩人 (1795-1821)。
- ℓ. 3 ◇ The biographies = The biographies of Keats 「これまで書かれてきたキーツに関する伝記」
- ℓ. 4 ◇ largely = to a great extent; mostly; on the whole
◇ And he is like no other poet. = And he is not like any other poet.
- ℓ. 5 ◇ (William) Wordsworth 「(ウィリアム・) ワーズワース」 英国の詩人 (1770-1850)。
◇ (Percy Bysshe) Shelley 「(パーシー・ビッシュ・) シェリー」 英国の詩人 (1792-1822)。
◇ with such ardour (as Keats' ardour)
○ ardour = burning enthusiasm; passion; zeal
◇ abstraction = C the act of regarding something from an abstract point of view; a thing that is considered from an abstract point of view

- < abstract = separated from what is real; thought separated from facts or objects
- ℓ. 6 ◇ which : 先行詞は truths。
- ℓ. 7 ◇ have little to do with = be little concerned or connected with
 ◇ count for much = be of much value or importance
 ◇ distort = give a misleading account of
- ℓ. 8 ◇ theory = an idea or set of ideas that is intended to explain something
- ℓ. 9 ◇ absolute = not relative; independent 「絶対的な；無条件の」
- ℓ. 11 ◇ which : 先行詞は an age。
 ◇ celebrated = famous; well-known; spoken of everywhere
- ℓ. 12 ◇ now 「したがって；そこで」
 ◇ affect ~ = influence ~ 「～に影響を与える」
- ℓ. 13 ◇ unjust = unfair
 < just = fair; morally right and proper
- ℓ. 14 ◇ juvenilia = works produced by an author in youth 「初期の作品」
 < juvenile = young; youthful
 ◇ never have the *Juvenilia* of a poet been so cruelly scanned (as his have been)
 ○ 否定語が前に出たことにより、疑問文の語順になる倒置。
 ○ scan = look at every part of (something) carefully
- ℓ. 15 ◇ He had not time … (文語) = He did not have time …
 ◇ prune = trim; remove (something unwanted)
 ◇ redundancy < redundant = not needed; more than is necessary
- ℓ. 16 ◇ tale = (old or literary use) a total found by counting
 < tell = count a numbers of a group
cf. all *told* = in total (合計で) **盲点**
 ◇ barely = only just; certainly not more than (a particular amount, age, time, etc.)
cf. There were *barely* fifty people present.
 (出席者はかろうじて 50 人いた。) ※ 肯定を含意
 There were *scarcely* fifty people present.
 (出席者はほとんど 50 人に満たなかった。) ※ 否定を含意
- ℓ. 17 ◇ moving = producing strong emotion, especially sadness or sympathy

【3】

解答・解説

- (1) It is difficult to pin down national characteristics
 ○ It は to do 以下を受ける形式主語。
 ○ 下線部① 「国民の諸特色は針で留めるに容易でない 《直訳》」
- (2) when they are pinned down
 ○ 直前部分を参照→ national characteristics は既出の名詞なので they と代名詞に直す。

- (3) prove
 ○ turn out 「転じて出て来る《直訳》→～であると判明する」
- (4) **a** thought
 ○ causeless < cause = reason
- (5) **a** a few
 ○ a couple of = ① two ② *a few; several*
a couple of generalizations の総数：
 i) one … another ～の場合
 「1個は …, (残りのうちの) 任意の1個は～」
 ○ 3個以上の要素の存在を含意。
 ii) one … the other ～の場合
 「1個は …, (任意ではなく) 限定される (したがって残りはそれしかない) 1個は」
 ○ 2個の要素の存在を含意。
 ○ **b** quite a few = not a few; many
- (6) **b, d**
 ○ flourish = be active and well
a descend = go or come down ⇔ ascend
b prosper = succeed
c submit = give way; yield
d thrive = prosper; succeed
- (7) 絵画；彫刻
 ○ painting and sculpture have never [flourished in England as they have (flourished) in France]
 ○ never の射程が文末まで及んでいるので、「絵画や彫刻は、フランスとは違って英国では一度たりとも隆盛を極めたことはない」となる。
- (8) 「全訳」の下線部①参照。
 ○ as A go 「〈Aの〉一般的な基準と比較して；〈A〉としては」
 ○ Aには複数名詞がくる。
 ○ go = be on the average
cf. He's a good actor, as actors *go* nowadays.
 (≡ compared with the average actor of today)
- (9) concrete = existing in a physical form; not abstract; definite
 ○ abstract = having to do with ideas or qualities rather than physical things

(10) 「全訳」の下線部①参照。

○ One has only to look at

their methods of

town-planning

and

water-supply

(their methods の具体例)

,

their obstinate clinging to everything that is out of date and a nuisance

,

a spelling system that ...

and

a system of weights and measures that ...

(their ~ to everything that is out of date and a nuisance の具体例)

to see how little ~ efficiency.

○ their methods と their obstinate clinging to everything that is out of date and a nuisance は並列関係にある。前者の具体例が town-planning and water-supply, 後者の具体例が a spelling system that defies analysis and a system of weights and measures that is intelligible only to the compilers of arithmetic books. したがって their methods ~, their obstinate ~, a spelling system を並列関係にとる訳は誤訳。

(11) hypocrite = a person who pretends to have higher standards or beliefs than is the case

(12) a balance

○ con-duct [kɑːndʌkt] = behavior

a bal-ance [bæləns]

b con-trol [kəntrɒl]

c con-sent [kənsɛnt]

d re-port [rɪpɔːrt]

(13) 「全訳」の下線部②参照。

○ a sleep-walking people は The phrase と同格。

○ would は仮定法で、条件は to the English。

(14) 「全訳」の下線部③参照。

○ not that ... = though *one* is not suggesting that ...; although it is not true that ... 「だからといって...というわけではないが」

(15) b, d

a in-tel-lec-tu-al [ɪntələktʃuəl]

b ob-sti-nate [ɑːbstənət]

c a-nal-y-sis [ənæləsis]

d in-stinct [ɪnstɪŋkt]

国民性というものを正確に述べることは容易ではなく、またそれが正確に述べられた場合でも、そうしたものは、しばしば後になって大した意味を持たないことが判明したり、互いに何の関連も持たないように見えたりする。しかしそれにもかかわらず、そのように言われる原因のないものは1つとしてなく、英国人には虫歯が多いという事実さえ英国の生活の現実について何かを物語ってくれる。

以下にいくつかの英国に関する一般論を示す。それらは英国を見る人のほぼ全員に受け入れられるであろう。1つは、英国人は芸術の才には恵まれていないということである。彼らはドイツ人やイタリア人ほど音楽に秀でておらず、絵画や彫刻はフランスとは違って、英国では一度たりとも隆盛を極めたことはない。⑩もう1つは、他の欧州人に比べると、英国人は知的ではないということである。彼らは抽象的思考をひどく嫌い、いかなる哲学も体系的な「世界観」も必要だとは思わない。このことは彼らが、自らを好んで主張するように「実際の」だからではない。⑪英国人の都市計画や給水の手法、分析不能な綴り字法や算術書の編集者にしかわからない計量単位制度といった時代遅れで厄介なものを何一つ英国人は手放そうとせずにかたくなに守っていることを見さえすれば、単なる能率などということに対して、彼らがいかに無頓着であるかがわかる。しかし、彼らは考えずに実行するというある種の才能を持っている。彼らの世界に名だたる偽善性は、このことと関係がある。さらには、非常な危機に際して国全体が突如として1つにまとまり、ある種の本能に基づいて行動することができる——それは実際のところ1つの行動の規範であって、明文化されてはいないけれども、ほぼ全国民によって理解されている。⑫ヒトラーがドイツ国民に対して用いた「夢遊病にかかった民族」という言葉は、英国人にこそ一層よく当てはまったであろう。⑬もっとも、夢遊病者になることに何ら誇るべきことがあるわけでもないのだが。

注

- ℓ. 1 ◇ pin (something) down = say exactly what (something) is
 ℓ. 5 ◇ generalization = general statement 「一般化；一般概念」
 ◇ that：先行詞は a couple of generalizations about England。
 ◇ would：仮定法；婉曲。
 ℓ. 6 ◇ the English = the people of England
 ◇ artistically < artistic = of art or artist
 ◇ musical = skilled in music
 ℓ. 9 ◇ have a horror of = hate
 ℓ. 10 ◇ systematic = orderly; methodical 「体系的な；整然と分類された」
 ◇ Nor is this ~ = And this is not ~
 ○ 否定語が前に出たことによる倒置。
 ○ nor = and not
 ◇ practical = relating to or concerned with practice ⇔ theoretical
 cf. in practice ⇔ in theory
 ℓ. 11 ◇ claim ~ = assert ~ 「~と主張する」
 ◇ have only to ... = only have to ...

- ◇ town
 - In Great Britain the word *town* is used much more frequently than *city*. Even when the place actually is a city, the word *city* is used chiefly in connection with local government affairs.
- ℓ. 12 ◇ obstinate = stubborn; unyielding 「頑固な」
 - ◇ cling = stick; adhere
 - ◇ out of date = no longer used; old fashioned
 - ⇔ up to date = modern; in fashion
 - ◇ nuisance = a thing that is annoying or causing trouble
 - ◇ a spelling system that defies analysis
 - 「分析を受け付けない綴り字法→分析不能な綴り字法」
 - system = method
 - defy = resist; refuse to obey
- ℓ. 13 ◇ weights and measures 「度量衡；重量及び計量単位」
 - ◇ intelligible = that can be easily understood
- ℓ. 14 ◇ compiler = a person who compiles something
 - < compile = produce a book
 - ◇ arithmetic 「算数の」
 - ◇ see = have knowledge or experience of
 - ◇ care about = be concerned about; be interested in
 - ◇ mere = being nothing more than
- ℓ. 15 ◇ take thought = consider matters
 - ◇ world-famed = world-famous
- ℓ. 16 ◇ be bound up with = be closely connected with
- ℓ. 17 ◇ draw together = come closer 「近寄る」
 - ◇ act upon = act supported by
 - ◇ a species of = a sort of
 - ◇ code = a set of moral principles accepted by society
- ℓ. 18 ◇ formulate = express clearly
- ℓ. 19 ◇ coin = invent (a new word)
 - ◇ would : 仮定法。to the English が条件。
 - ◇ apply = make use of; employ

【4】

解答

「全訳」参照。

全訳

どのようにして本書が、この種の作品にしては、かくも大いなる成功を博するに至ったのか、そしてどのような人々がそれを買った（「読んだ」とはあえて言うつもりはないが）人々

の大半を構成しているのかということを私はまだ完全には理解していない。

注

- ℓ. 1 ◇ How the book ~ it, ...
 ○文末の understood の目的語が旧情報として文頭にシフトされたもの。
 ◇ for ~ 「～の割には」
cf. It's cold *for* this time of year. (今頃の季節 [(一年の) この時期] にはしては寒い。)
- ℓ. 2 ◇ compose = constitute; make up
 ◇ the bulk of = the largest part of
 ○ bulk = largeness of size, shape, or mass
 ◇ venture to ... = dare to ...
 ◇ read [réd] (過去分詞)
 ○ (have) bought に対応, 共に他動詞で目的語は it とする。
- ℓ. 3 ◇ never thoroughly : 部分否定。

[5]

解答

Part A

Day	Starting Time	Activity
Tue	8:00	Have breakfast with vice president
Tue	10:00	<u>Drive to plant</u>
Tue	11:00	<u>Tour plant</u>
Tue	<u>11:30</u>	Meet plant managers
Tue	12:30	<u>Drive back to hotel</u>
Tue	13:30	<u>Have [Eat] lunch and take a walk</u>
Tue	<u>15:00</u>	<u>Be interviewed by BusinessWeek reporter</u>
Tue	<u>16:00</u>	Attend meeting of board of directors
Tue	18:00	<u>Have [Drink] cocktails</u>
Tue	20:00	<u>Have [Eat] dinner</u>
Wed	6:00	<u>Have [Eat] breakfast</u>
Wed	6:45	<u>Drive to factory</u>

Part B

- (1) F (2) F (3) T (4) F (5) T
 (6) F (7) F (8) F (9) T (10) T

Script

CD 13 ~ 15

M : Good morning, Ms. Browning. I have your schedule for Tuesday ready.
 W : I'm glad to hear that, Michael. Am I going to have any free time?
 M : A bit, but it's going to be an awfully busy day.

W : I see. Let me hear what's happening in the morning.

5 M : All right. From 8:00 to 10:00 you're having breakfast with the vice president of Ramona Aluminum.

W : Oh, couldn't I just meet him from 9:00 to 10:00 at his office? I was looking forward to having breakfast alone on the terrace of my hotel room. The view of the lake is wonderful.

10 M : Well, if you insist.... But I wouldn't recommend changing the appointment. The breakfast was his idea, and he seemed like the aggressive type that likes to get his own way about things like that.

W : I'll take your advice, Michael, but if I have to meet an aggressive vice president, I'd rather do it on a full stomach.

15 M : After that you'll be driving out to their new plant. It's supposed to be a scenic route, so I think you'll enjoy it.

W : How long will that take?

M : Only an hour.

W : So I'll be eating lunch at the factory?

20 M : Yes, after a thirty-minute tour of the plant and a one-hour meeting with the plant managers.

W : Then lunch?

M : Yes. They said you could eat at the plant cafeteria. They apologized about not having anything more luxurious to offer, but there is apparently not much in the way
25 of restaurants out there. Of course, if you'd rather, they could bring you directly back after the meeting and you could have lunch at the hotel or somewhere in the neighborhood.

W : Yes, actually, I would rather. Not that I mind a simple lunch, but I would like to have a look around the town if possible.

30 M : If you skipped having lunch at the factory, you would be back at the hotel by 1:30. A
reporter from *BusinessWeek* will be here to interview you at 3:00. That would give
you time for lunch and a nice walk if you like.

W : That sounds fine. But don't tell the vice president I want to see the town. He'll insist
on giving me a guided tour. Just tell him I want to rest in my room before the
35 interview. Then I can have a peaceful walk around the lake.

M : Your secret is safe with me.

W : What else is scheduled?

M : There will be a formal meeting here at the hotel with the board of directors at 4:00.
You will be expected to speak for twenty minutes. The meeting will go until 6:00,
40 after which you'll go up to the Flamingo Lounge on the top floor for cocktails, then
dinner at 8:00 in the French restaurant, which is on the same floor.

W : That doesn't sound too difficult. I'm glad I won't have to be driving around in the
evening as well.

M : No, but on Wednesday, you'll be visiting the other three plants. You'll be on the road
45 at least six hours. Breakfast will have to be at 6:00. Then a two-hour drive to the
factory in Cookstown from 6:45.

W : Well, there's no way around it. Oh, before I forget, where is the meeting with the
board of directors to be?

M : Conference Room #3, on the eighth floor.

[566 words]

全訳

M : おはようございます, ブラウニングさん。火曜日のスケジュールができております。

W : それはよかったわ, マイケル。自由時間はありそう?

M : 少しはありますが, とても忙しい日になりそうです。

W : そう。午前中の予定はどうなっているのか, 聞かせて。

M : はい。8時から10時まで, ラモーナ・アルミニウムの副社長と朝食の予定です。

W : あら, 9時から10時まで彼のオフィスで会うのじゃだめなの? ホテルの部屋のテラスで1人で朝食をとるのを楽しみにしていたのに。湖の景色が素晴らしいのよ。

M : もし, どうしてもと仰るなら…。しかし, 会う約束は変更しない方がいいと思いますが。

朝食会は彼のアイデアで、こういったことについては自分の思い通りにしたがる強引な方のようなのでしたから。

W：あなたのアドバイスに従うわ、マイケル。でも、強引な副社長に会わなければいけないのなら、お腹が一杯の時にしたいわね。

M：その後、車で先方の新しい工場へ向かいます。景色のよい道を通るとのことなので、楽しめるのではと思います。

W：どのくらいかかるの？

M：ほんの1時間です。

W：そうすると、昼食は工場で食べることになるの？

M：はい。30分工場を見学して、工場の経営者たちと1時間面会してからですが。

W：それから昼食？

M：はい。工場のカフェテリアで食事ができるそうです。もっと豪華なおもてなしができなくて申し訳ないと先方が仰っていましたが、あの辺にはレストランなどはあまりないようですから。もちろん、ミーティングの後にすぐにお戻りになって、ホテルかどこかその近辺で昼食にする方がよろしければ、そうしてもらいますが。

W：そうね、その方がいいわ。質素な昼食が嫌というわけではないのだけれど、できれば町を見て歩きたいわ。

M：工場での昼食をなしにすれば、1時半にはホテルに戻れます。3時に『ビジネス・ウィーク』の記者がインタビューに来ますから、それまで昼食と散歩をする時間があります。

W：いいわね。でも、その副社長には私が町を見て歩きたいって言わないでね。おそらく、ガイドを付けて見学させてくれようとするから。インタビューの前に部屋で休みたいからだって彼に言うておいてね。そうすれば、湖の周りをゆっくりと散歩できるわ。

M：秘密はもちろん守りますよ。

W：他に何か予定は？

M：4時にホテルで重役会議があります。20分間スピーチをしていただくことになっています。会議は6時までで、その後最上階のフラミンゴ・ラウンジでカクテル・パーティー、それから8時に同じ階のフランス料理店で夕食となっております。

W：そんなに忙しくはなさそうね。夜は車であちこち行かなくていいから、よかったわ。

M：ええ。でも、水曜日には他の3つの工場へ行くことになっています。少なくとも6時間は車に乗ることになります。朝食は6時で、6時45分にクックスタウンの工場へ2時間かけて向かいます。

W：まあ、仕方ないわね。そうだ、忘れる前に確認だけど、重役会議はどこであるの？

M：8階の第3会議室です。

注.....

ℓ. 3 ◇ awfully 「非常に」

ℓ. 4 ◇ Let me hear what's happening … 「…どうなっているか聞かせて下さい」

ℓ. 7 ◇ Couldn't I just …? 「…するのはいけないのですか。」

ℓ. 10 ◇ if you insist 「どうしてもと言うのなら」

◇ I wouldn't recommend …ing 「…するのはよくないと思う」

- ℓ. 11 ◇ aggressive type 「強引なタイプの人」
 ◇ get *one's* own way 「自分の思い通りにする」 (= have *one's* own way)
- ℓ. 14 ◇ on a full stomach 「満腹の時に」 (⇔ on an empty stomach)
- ℓ. 15 ◇ plant 「(製造) 工場」
 ◇ be supposed to be ~ 「～だとされている」 cf. *be supposed to* … (…することになっている；(2人称の場合) …しなければならない)
 ◇ scenic 「景色のよい」
- ℓ. 23 ◇ apologize about not …ing 「…しないことを謝る」
 cf. *apologize about* …ing (…することを謝る)
- ℓ. 24 ◇ luxurious 「豪華な」
 ◇ apparently 「見たところ…らしい」
 ◇ in the way of ~ 「～としては；～の点で」
- ℓ. 25 ◇ if you'd rather, they could … 「もしその方がよければ，…することもできる」(仮定法)
- ℓ. 28 ◇ not that … 「…というわけではない」
 ◇ simple lunch 「質素な〔豪華でない〕昼食」
 ◇ have a look around ~ 「～を見て回る」
- ℓ. 30 ◇ skip ~ 「～をしないでおく」
- ℓ. 31 ◇ that *would* give you time for ~ 「そうすれば～の時間ができる」
- ℓ. 33 ◇ insist on …ing 「どうしても…したがる」
- ℓ. 34 ◇ give ~ a guided tour 「～にガイドを付けて見学させる」
 ◇ Just tell him ~ 「～と彼に言ってもらえればいい」
- ℓ. 36 ◇ Your secret is safe with me. 「私はあなたの秘密は守ります。」
- ℓ. 38 ◇ board of directors 「重役会議」
- ℓ. 39 ◇ be expected to … 「…することになっている」 (= be supposed to …)
- ℓ. 40 ◇ for cocktails = for a cocktail party
- ℓ. 42 ◇ That doesn't sound too … 「それほど…そうではない」
 ◇ I'm glad I *won't* have to … in the evening *as well*. 「夜は…しなくていいので嬉しい。」
- ℓ. 44 ◇ be on the road 「移動中の」
- ℓ. 47 ◇ there's no way around it 「それは仕方がない」
 ◇ Where is ~ to be? 「～はどこで行われるのですか。」('予定'を表す be to …)

【6】

解答

(1) d (2) e (3) a (4) a (5) e

解説

- (1) ℓ. 23 ~ 24 の With Mark to talk to she could bear the blackness of the tunnel. と，
 ℓ. 32 の The flare of light was startling in the tunnel. に， the tunnel が用いられて

- いることから、d 「地下道の中」が正解。
- (2) 登場人物は2人。まず、ℓ. 1のAlisonが代名詞sheで言い換えられていることから、女性であることがわかる。次に、もう1人Markについては、ℓ. 10でHe was alive!と言っている。さらに、ℓ. 29にa boy of Mark's ageとあるので、Markは若い男の人で、生きていることがわかる。したがって、e 「若い男の人と女の人」が正解。
- (3) ℓ. 36～43で、Markがここまでの経緯をAlisonに説明している。その中で、ℓ. 36～37のI was just walking along when suddenly I felt this hand round my face. と、ℓ. 41のAnyway, the next thing I felt was this pain in the side of my neck. から急に誰かに襲われたことがわかる。
- (4) ℓ. 24のthe blackness of the tunnelとℓ. 32～33のThe flare of light was startling in the tunnel. Before it went out she was able to have a close look at him. がヒント。
- (5) ℓ. 27 "I've got some matches in my pocket — the left one," he said. "Can you fish them out?" がヒント。Markに「マッチがポケットに入っている。取り出してくれるかい?」と言われたためである。

全訳

アリソンは震える手では、もう一度彼女が触れた身体に手を伸ばした。彼女の指がむきだしの〔露出した〕脚に触れたがまったく動かなかった。また叫び声が喉まで出かかったが、どうにかそれを抑えた。彼女は最初、死体を発見したのだと思ったのだ。

ゆっくりと、とてもゆっくりと、骨に沿って膝まで指を這わせた。手の甲が半ズボンの布地をかすめた時、ようやくそれがマークだとわかった。

恐る恐る、脈をみるために彼の手首を探した。彼女はあまりに震えていたので、そもそも脈があるのかどうかほとんどわからなかった。シャツのボタンは開いていたので、彼女は何とか心臓の鼓動を確かめようと、頭を彼の胸に近づけた。ぴくりともしないので、彼は死んでいるにちがいない、とアリソンは確信した。

その時、かすかにではあるが規則正しく、マークが呼吸する音が聞こえた。生きてるわ！けがをしているかもしれない。重傷さえ負っているかもしれない。でも、生きている。安堵で、涙を流すことさえできそうであった。

すぐさま彼の頭を両手に抱えて揺すり、目を覚ましてくれるように、必死で話しかけた。「マーク、私よ、アリソンよ。マーク、聞こえる？ ねえ、お願い、目を覚まして。マークったら、お願いだから。」

何の反応もなかった。抱えていた彼の頭を再びそっと地面に降ろすと、ショルダーバッグの中を引っかき回して、ハンカチを捜した。急いで壁に付いている水滴でハンカチを湿らせ、マークの額を拭き始めた。運が良ければ、ひんやりとしたその冷たさで彼が意識をとり戻すかもしれない。

彼女には彼のまぶたがピクピクと動いているのは見えなかったが、身体が動くのを感じた。

「マーク、マーク。」心配そうに声をかけた。「大丈夫？ 一体何が起こったの？ ねえマーク、聞こえる？」

「大丈夫だと思う。」彼はゆっくりと答えた。少ししわがれた声であったが、それは大した問題ではなかった。彼女にとって大切なのは、マークが生きていて、自分と話せるというこ

と、そして、もはや彼女は1人ぼっちではないということだった。彼女の人生において、この時ほど人の声を聞いて幸せに感じたことはなかった。マークと話せば、地下道の暗さに耐えられた。

「痛い所なんかはない？」彼女は聞いた。「できるなら体を起こして。」彼女が手を貸して、マークの上体を起こした。彼女にわかる限りでは、骨も折れていないし、大きなけがもなかった。

「ポケットにマッチが入っている。左のポケットに。取り出してくれるかい？」

彼は言った。

ぴっちりとしたポケットの口に片手をねじ込むと、マッチ箱があった。マークくらいの年頃の男の子なら、マッチを持ち歩いているだろうということを、彼女は思いついてもよかつたであろうに。おそらく、彼はタバコを吸うのだ。

アリソンは、不器用な手つきで箱を開けた。まだ手元がかなりおぼつかない。そしてようやくマッチを擦った。揺らめく炎が、地下道の中でまぶしかった。火が消えるまでは、彼の顔をじっと見る事ができた。驚いたことに、彼は普段と変わらない様子だった。間違いなく、打ち傷や切り傷の跡はまったくなかった。顔面蒼白であったが、これは彼の身に起きたことの後に予測されることに他ならなかった。しかし、一体何が起こったのであろうか。

「さあ、はっきりとはわからないんだ。」マークは言った。「歩いている時に、突然何者かに手で顔を覆われた。指で口を完全にふさがれていたのだから、叫ぶことも何もできなかった。正直、一瞬冗談〔悪ふざけ〕かと思ったよ。スティーブがやりそうなことだからね。角で待ち伏せて、僕を捕まえて。ほら、自分がいかに頭がいいかってことを見せつけるためにさ。」

「とにかく、次の瞬間、首筋に痛みを感じた。ひどい痛みだ。きっとそれで意識を失ったんだな。何も考える時間がなかったことは憶えている。次に僕が聞いたのは、僕の名前を呼ぶ君の声だったんだ。」

注

- ℓ. 1 ◇ tremble = shake in a way that you cannot control, especially because you are very nervous, excited, frightened, etc.
◇ reach out to somebody = move your hand or arm in order to touch somebody
- ℓ. 2 ◇ come in contact with = touch
○ in contact with = in the state of touching
cf. In his jobs he often *comes into contact with* (= meets) lawyers.
(彼は仕事で弁護士と会うことが多い。)
- ◇ bare = not covered by any clothes
◇ scream = a loud high cry made by somebody who is hurt, frightened, excited, etc.
- ℓ. 3 ◇ throat = the front of the neck
cf. George cleared his *throat* and spoke in polite tones.
(ジョージは咳払いをして、丁寧な口調で話した。)
- ◇ somehow = in some way or by some means, although you do not know how
◇ hold back = keep from being perceived by others, as of emotions or expressions of emotions

- ◇ body = body of a dead animal or person
- ℓ. 4 ◇ It was only when the back of her hand brushed against the fabric of his shorts that she knew it was Mark.
 次のような構造を持つ強調構文であることに注意。

<p>It was</p> <p style="text-align: center;"><u>only when the back of her hand brushed against the fabric of his shorts</u></p> <p style="text-align: center;">強調される要素 (= 焦点)</p> <p>that she knew (that) it was Mark.</p>
--

- ℓ. 6 ◇ search for = look for
 ◇ feel for = search for something with your hands, feet, etc.
 ◇ pulse = the regular beat of blood as it is pumped around the body, that can be felt in different places, especially on the inside part of the wrist
 ◇ She was trembling so much (that) she could barely tell ～と補って考える。
 ○ここでの so ～ that …は、‘結果’を表している。
- ℓ. 7 ◇ barely = hardly 「ほとんど～ない」
 ◇ tell = know
 ◇ beat 「鼓動」
- ℓ. 8 ◇ strive to … = make a great effort to …
 ◇ detect = discover or notice something, especially something that is not easy to see, hear, etc.
 ◇ He was so still that she was positive he was dead
 ○ still = not moving; motionless
 ○ positive = very sure, without doubt at all that something is right or true
- ℓ. 10 ◇ Then = At that moment
 ◇ faintly < faint = that cannot be clearly seen, heard or smelt
- ℓ. 11 ◇ She could have wept with relief.
 ○ 仮定法過去完了
 ○ weep = cry; shed tears
- ℓ. 12 ◇ cradle = hold something gently (in your arms or hands)
 ◇ plead with A to do = ask A to do in a very strong and serious way
- ℓ. 15 ◇ scrabble = try to find or do something in a hurry or with difficulty, often by moving your hands or feet about quickly, without much control
 ◇ dampen = make something slightly wet
- ℓ. 16 ◇ moisture = tiny drops of water in the air, on a surface, or in the ground
cf. moist = slightly wet; damp
 ◇ wipe = to slide something, especially a piece of cloth, over the surface of something else, in order to remove dirt, food or liquid

- ◇ With luck the coolness might help to revive him
- With luck が条件：「運があれば；運が良ければ」
- revive = make someone conscious, healthy, or strong again
- ℓ. 18 ◇ eyelids = two pieces of skin which cover your eyes when they are closed
- ◇ flutter = make a series of quick delicate movements up and down or from side to side
- ℓ. 19 ◇ What on earth …?
- on earth = used with question words to convey surprise
- ℓ. 21 ◇ croaky = low and rough
- ◇ that didn't matter
- that は前述の内容を指している。
- ここでは, His voice was a bit croaky のこと。
- ℓ. 22 ◇ All that mattered was that …
- ここでの All that は, ‘制限’の意味で用いられている。
- cf. All you have to do is to hold your tongue.
(君は黙っているだけでいい。)
- ℓ. 23 ◇ Never in her life had she felt happier to hear a human voice
= She had never felt happier to hear a human voice in her life
- 否定の副詞語句 Never in her life が文頭に出た形。
- ◇ With Mark to talk to she could bear the blackness of the tunnel
- to talk to は Mark を修飾する形容詞用法の不定詞。
- bear = accept, tolerate or endure especially something unpleasant
- ℓ. 25 ◇ sit up = ① *change to an upright sitting position* ② not go to bed
- ℓ. 26 ◇ As far as she could tell
= As far as she could know
= To the best of her knowledge
- ℓ. 27 ◇ fish something out = take or pull something out of a place
- ℓ. 28 ◇ wriggle = turn a part of your body around, or change your position by turning
- ◇ It should have occurred to her that …
- should have + 過去分詞 「～すべきだったのに (実際はしなかった)」
- ℓ. 31 ◇ fumble = do something awkwardly, especially when using your hands
- ◇ unsteady = shaking or moving in a way that is not controlled
- ◇ strike 「マッチを擦る；こすって火を付ける」
- ℓ. 32 ◇ flare = a bright but unsteady light or flame that does not last long
- ◇ startling = extremely bright
- ℓ. 33 ◇ To her surprise 「彼女が驚いたことには」
- to *one's* + 感情を表す名詞 「～が…したことには」
- ℓ. 34 ◇ bruise = a blue, brown or purple mark that appears on the skin after somebody has fallen, been hit, etc.

- ◇ cut = a wound caused by something sharp
- ◇ white = looking pale, because of illness, strong emotion etc.
- ◇ that was only to be expected after what had happened
 - that は前述の内容を指す。ここでは his face seemed very white。
- ℓ. 36 ◇ I was just walking along when suddenly I felt this hand round my face
 - 過去進行形 + when …は、前から訳す。
 - cf. I was thinking of this *when I heard my name called.*
 - (このことを考えていた時に、名前を呼ばれるのが聞こえた。)
 - along = forward; onward
 - ◇ I felt this hand round my face
 - this = used when you are telling a story or telling somebody about something
 - ※この this は、主として体験などの叙述において初出のものを指す場合や、あるいはすでに特定化されているかのように指示することによって、聞き手に現実感、親近感を与える場合に用いられる。
 - round = around; on all sides of somebody or something; surrounding somebody or something
- ℓ. 37 ◇ yell out = shout loudly
 - ◇ clamp = hold or fasten something very tightly so that it does not move
- ℓ. 38 ◇ right = completely
- ℓ. 42 ◇ black out = lose consciousness for a short time

添削課題

解答例

If I could, I would change my lack of musical ability. Although I have always loved music and even dreamed of becoming a musician, I am uncoordinated when it comes to playing instruments and have no singing ability at all. I occasionally sing a song at a party when pressed to do so, but I am seldom asked a second time. [61 words]

別解

What I would change if it were possible is my lack of athletic ability. I am quite poor at sports and unlike most people around me I have never been able to enjoy playing them. I think that my life would be better if I were athletic because playing sports would relieve my stress and improve my social life. [59 words]

解説

- *If you could change one thing about yourself, what would it be?* This question is a little different from asking what *one* wants to change. I would expect an answer about something that probably cannot actually be changed. For example, you may wish you were taller or shorter or gifted with some natural talent, but there is not much you can do about it. On the other hand, if you want to be better at math or speaking English, study and practice can get you what you want. The same is true about many personality traits. A shy person can learn to be more confident and a nervous person can learn to relax.
- If I say, "I wish I could go home for Christmas," it suggests that in fact I can't for some reason such as lack of time or money. However, if I say, "I hope I can go home for Christmas," it means both that I want to and that I think it may be possible.